

海外におけるサツマイモと焼き芋の販売状況 ータイ・バンコクにおける店頭販売状況 に関する調査報告ー

農研機構 企画戦略本部 農業経営戦略部
研究員

うえにし よしひろ
上西 良廣

1 タイにおけるサツマイモの輸入状況

近年、日本産サツマイモの輸出が着実に伸びている。財務省「貿易統計」により直近3か年（2017～2019年）のサツマイモの輸出量に注目すると、2019年の輸出量が最も多いのは香港（約2,200トン）、次いでシンガポール（約1,100トン）、タイ（約540トン）となっており、タイへの輸出量は三番目に多い。輸出量全体に占める割合は約12%である。日本からタイへの輸出量の推移は、2017年が242トン、2018年が293トンとなっており着実に増加している。

表1は、タイにおけるサツマイモの国別輸入量について整理したものである。ベトナム産やラオス産の占める割合が高く、日本産は数量ベースではわずか1.5%にとどまるが、金額ベースでは約15%と高い割合を占めている。タイでもサツマイモは生産

しているが、日本産のサツマイモは甘さが強いいため、タイの消費者はタイ産とは全く別のものとして理解しているそうである（JETRO, 2017）。

以上のように、タイ人の日本産サツマイモに対する認識と、輸出量の推移を踏まえると、今後もタイ向けにサツマイモの輸出拡大を期待できると考えられる。そこで、2020年2月にタイ・バンコクを訪問し、現地スーパー等におけるサツマイモと焼き芋の店頭販売状況調査を行ったので、その結果について報告する。

2 調査の概要

2020年2月19日～20日に、バンコク都心の百貨店やスーパー、市場など18か所を訪問し、サツマイモおよび焼き芋の店頭での販売状況を調査した。事前にインター

表1 タイにおけるサツマイモの国別輸入量

	合計	1位	2位	3位	4位	5位
数量ベース	18,796 (トン)	ラオス 57.8%	ベトナム 25.0%	カンボジア 14.2%	日本 1.5%	インドネシア 1.3%
金額ベース	14,090 (千USD)	ベトナム 38.6%	ラオス 35.7%	日本 14.6%	インドネシア 4.6%	カンボジア 4.1%

出所：FAOSTATのデータ（2017年）を元に筆者作成。

ネットを活用して、サツマイモまたは焼き芋を販売している店舗の情報を収集した。できる限り多くの場所を訪問するために、鉄道の駅から徒歩圏内の店を中心に訪問した。具体的な調査内容は、生産国や販売価格、重量、肉色、生産方法（有機栽培など）などである。

なお、本稿で紹介する価格などの情報は2020年2月の調査時点のものである。この時点では、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の拡大はまだ限定的であり、タイ国内において海外から渡航した日本人などの移動が制限される前であった。換算レートは1バーツ=3.56円（2020年2月20日時点）であった。

3 サツマイモの店頭販売状況

表2はサツマイモの店頭販売状況調査の結果として、販売価格や生産国、肉色、品種などの情報を整理したものである。今回の調査で訪問したスーパーや百貨店など18か所のうち、日本産サツマイモが確認できたのは12か所であった。販売店数は合計40点を確認することができ、生産国で分類すると日本産が18点、タイ産が7点、ベトナム産が3点、オーストラリア産が1点、生産国不明が11点であり、日本産が圧倒的に多かった。なお、今回の調査ではバンコク都心部に位置し、かつ徒歩圏内の店を中心に調査したため、日本産が特に多い結果になったと考えられる。バンコク郊外や、バンコク以外の都市の店においても日本産が多く見られるかは不明であるため、注意が必要である。

(1) 日本産サツマイモの販売状況

日本産サツマイモは、日本語のパッケージで包装されている商品や、日本語のポップで説明が書かれている店もあったため、産地や品種の特定が可能である場合が多かった（写真1）。現地在住の日本人の話では、多くのタイ人は日本語が読めるわけではないが、日本語で書かれていることによって安心して購入しているそうである。日本産のサツマイモは、日系百貨店や日系スーパーのみならず、タイ資本の高級スーパーや地元のスーパー、外資の大型量販店など様々な業態で販売していた。産地は茨城県産と鹿屋産、品種はべにはるか、ベニアズマ、シルクスイートを確認することができた。茨城県産のサツマイモは3か所で確認でき、3か所とも品種はシルクスイート、価格は39.9バーツ/100gであった。肉色は黄色のサツマイモのみを確認でき、紫肉色のサツマイモは確認できなかった。



写真1 日本産サツマイモ販売の様子

表2 サツマイモの店頭販売状況調査の結果

業態		資本	生産国	店頭表示価格	換算価格 (パーツ/100g)	品種 または肉色
高級スーパーA	店舗1	タイ	日本（茨城）	399パーツ / kg	39.9	シルクスイート
			ベトナム	159パーツ / kg	15.9	
	店舗2		日本	890パーツ / kg	89	
			ベトナム	159パーツ / kg	15.9	
高級スーパーB		タイ	タイ	59パーツ / パック		紫
			タイ	49パーツ / パック		
			日本	399パーツ / パック		
			日本	79パーツ / 100g	79	
日系百貨店C		日本	日本（茨城）	399パーツ / kg	39.9	シルクスイート
スーパーD (国内最大のチェーン)	店舗1	タイ	タイ	35パーツ / 350g	10	
			日本	790パーツ / kg	79	
			日本	599パーツ / パック		
			日本	399パーツ / 700g	57	
	店舗2		タイ	119パーツ / kg	11.9	紫
			タイ	119パーツ / kg	11.9	黄、橙
			日本	699パーツ / kg	69.9	
	店舗3		不明	119パーツ / kg	11.9	紫
スーパーE		タイ	不明	69パーツ / kg	6.9	紫
			ベトナム	115パーツ / kg	11.5	
スーパーF		タイ	オーストラリア	325パーツ / kg	32.5	
			日本（鹿屋）	339パーツ / kg	33.9	べにはるか
			不明	135パーツ / kg	13.5	
スーパーG	店舗1	タイ	タイ	65パーツ / kg	6.5	紫
	店舗2		不明	99パーツ / パック		
スーパーH (ハイパーマーケット)	店舗1	タイ	タイ	109パーツ / kg	10.9	黄、紫
	店舗2		不明	不明		
日系スーパーI		日本	日本（茨城）	399パーツ / kg	39.9	シルクスイート
			不明	115パーツ / kg	11.5	
			不明	165パーツ / kg	16.5	
日系スーパーJ		日本	日本	59パーツ / 本		
			日本	109パーツ / 500g	21.8	
			不明	179パーツ / kg	17.9	黄
			不明	89パーツ / kg	8.9	
日系 ディスカウントストアK		日本	日本	399パーツ / パック		シルクスイート
			日本	299パーツ / パック		べにはるか
			日本	399パーツ / パック		ベニアズマ
市場L			日本（鹿屋）	350パーツ / kg	35	べにはるか
			不明	80パーツ / パック		
大型量販店M		外資	日本	99パーツ / 500g	20	べにはるか
			不明	49パーツ / kg	4.9	紫

注1）業態ごとに並べ替えた。日本産に関しては産地や品種を特定できたものは記載した。

注2）レートは2020年2月20日時点で、1パーツ=3.56円である。

(2) 業態ごとの販売状況

高級スーパー A、B では日本産と、ベトナム産またはタイ産を販売しており、ベトナム産は16パーツ/100g であったのに対し、日本産は40～90パーツ/100g であった。日系百貨店 C では茨城県産シルクスイートが40パーツ/100g であった。地元のスーパーでは日本産を販売している店もあったが、ベトナム産やタイ産、生産国不明のサツマイモを中心に販売している店もあった（スーパー E、G、H）（写真2）。今回の調査で一点だけ確認できたオーストラリア産は32.5パーツ/100g であり、日本産と近い価格帯であった。日系スーパー I、J では日本産と生産国が不明のサツマイモを販売していた。日系ディスカウントストア K では日本産のみを販売しており、品種はべにはるか、ベニアズマ、シルクスイート、地元の市場 L では鹿屋産べにはるか、大型量販店 M では日本産べにはるかを販売していた。

中・高所得者層の利用が比較的多いと考えられる日系百貨店や現地の高級スーパー等では日本産を販売している場所が多かつ



写真2 スーパーにおけるサツマイモ販売の様子

たが、中・低所得者層の利用が多いと考えられる現地のスーパーでは、価格が安いタイ産やベトナム産のみを販売しているという傾向が見られた。

4 焼き芋の店頭販売状況

表3は焼き芋の価格などの店頭販売状況

表3 焼き芋の店頭販売状況調査の結果

業態		生産国	店頭表示価格	換算価格 (パーツ/100g)	品種 または肉色
高級スーパーA	店舗1	日本（茨城）	55パーツ/100g	55	シルクスイート
	店舗2	日本	1,090パーツ/kg	109	
		ベトナム	189パーツ/kg	18.9	
日系百貨店C		日本（茨城）	55パーツ/100g	55	シルクスイート
スーパーD	店舗1	日本	79パーツ/100g	79	
	店舗2	日本（全農おおい）	69パーツ/100g	69	べにはるか（甘太くん）
日系スーパーI		日本（茨城）	55パーツ/100g	55	シルクスイート
日系スーパーJ		日本	59パーツ/本		べにはるか
日系 ディスカウントストアK		日本	80パーツ/本		べにはるか
		日本	80パーツ/本		シルクスイート
市場L		ベトナム	18パーツ/100g	18	黄

注1）業態は表2と対応している。

について整理したものである。今回の調査で訪問した18か所のうち、焼き芋を販売していたのは9か所であり、様々な業態の店で販売していた。いずれの店でも店頭焼き芋機が置いてあり、焼きたての焼き芋を販売していた。焼き上がりの時間になると店員が焼き芋を取り出しにくるという店もあったが、焼き芋の販売ブースに店員が1名常駐している店が多かった。常駐している店員は、焼き芋機から焼き芋を取り出す作業や、重量を測定して値札を貼る作業、商品の説明などを行っていた。

(1) 生産国別の販売状況

サツマイモの生産国に注目すると、日本産サツマイモを加工して販売していたのは8か所、ベトナム産は2か所であり、日本産サツマイモを加工して販売している店が多かった。市場Lの焼き芋のみ生産国が不明であったので、販売員に生産国を尋ねた。日本産は日本語で書かれたポップなどで、日本産であることを積極的にアピールしていた。

サツマイモの肉色は黄色のみであった。産地と品種を確認できたのは、茨城県産シルクスイートと全農おおいの「甘太くん」であった。茨城県産の焼き芋は3か所ともシルクスイートの焼き芋が販売されており、価格は55バーツ/100gであった（写真3）。

(2) 業態ごとの販売状況

高級スーパーAの店舗1、日系百貨店C、日系スーパーIでは茨城県産シルクスイートを加工した焼き芋を55バーツ/100gで販売していた。高級スーパーAの店舗2では日本産は109バーツ/100g、ベトナム産は19バーツ/100gで販売しており価格差



写真3 茨城県産の焼き芋

は5倍以上であった。スーパーDの店舗1では日本産は79バーツ/100g、店舗2では「甘太くん」の焼き芋を69バーツ/100gで販売していた。店舗2の焼き芋売り場には全農おおいの法被を着た販売員が常駐しており、「甘太くん」や産地などに関して親切に説明してくれた（写真4）。日



写真4 「甘太くん」の法被を着た販売員

系スーパーJでは日本産べにはるか焼き芋が1本あたり59バーツであった。日系スーパーでは、日本人女性が焼き芋を買い求める姿を確認できた。現地在住の日本人の話では、バンコク市内には日本人駐在員も多く、その家族にも人気があるのではないかとということであった。

日系ディスカウントストアKでは、店の入り口付近に「Sweet potato factory」というサツマイモの加工品に特化した販売ブースがあり、日本語も書かれたポスターで、焼き芋などのサツマイモ加工品を大々的に宣伝し販売していた（写真5）。

「冷やし焼き芋」という商品も販売されていた。このブース内で焼き芋を調理しているため、周辺には焼き芋の香ばしい匂いが漂っていた。また、ここのブースで代金を支払うので、わざわざ店内に入らなくても気軽に購入できるのが特徴であると感じた。焼き芋の品種はべにはるかシルクスイートがあり、1本80バーツで販売されていた。試しにべにはるか焼き芋を8本購入して重量を測定したところ最大値は195g、最小値は149gであったため個体間のバラツキは大きかった。8本の平均値は約166gであったため、100gあたりの価格に換算すると平均で約48バーツとなる。上記の茨城県産や大分県産と比較すると若干安

い。なお、店内のレジの近くにも焼き芋機があり、店内には焼き芋の匂いが充満していたため、匂いにつられてついつい購入してしまう人も多いのではないかと感じた。

市場Lでは、ベトナム産のサツマイモを加工した焼き芋を18バーツ/100gで販売していた。焼き芋はバナナと並べて網の上で焼かれており、購入して食べてみると粉質系の食味で、糖化が進んでいて甘くておいしかった（写真6）。



写真6 ベトナム産の焼き芋

ところで、2020年6月1日から、ベトナム産の紫イモを加工した調理済みの焼き芋が日系コンビニエンスストアで販売開始となった（アジア経済ニュース、2020）。価格は1本25バーツであり、紫イモに豊富に含まれるアントシアニンなどによる健康効果をアピールして販売するそうである。

これまでは主に日本産の黄肉色の焼き芋が販売されていたが、新たにベトナム産紫イモを加工した焼き芋が流通することで、バンコクにおける焼き芋の販売状況が今後変化する可能性がある。今後も引き続き調査が必要である。



写真5 Sweet potato factory

5 今後の展望

本稿では、タイ・バンコクにおけるサツマイモと焼き芋の店頭販売状況調査の結果を報告した。日本産のサツマイモおよび焼き芋は、現地で流通するタイ産やベトナム産と比較すると、非常に高い価格で販売されていた。しかし、訪問したスーパー等のうち、日本産サツマイモは3分の2の場所で販売されていたことから需要が高いと考えられる。また、紫肉色のサツマイモを加工した焼き芋の販売が開始されるなど、焼き芋の人気も高まっていると考えられる。そのため、タイ向けのサツマイモの輸出をさらに拡大するためには、現地人に嗜好さ

れる品種や、焼き芋として嗜好される可能性がある品種の特定などが今後重要になってくるであろう。

【参考文献】

- 1) JETRO (2017)「日本食品消費動向調査タイ」<https://www.jetro.go.jp/ext_images/_Reports/02/2017/c89c34591b088681/rp-reseth201703.pdf>
- 2) アジア経済ニュース (2020)「コーン缶詰サン、焼きムラサキイモ販売開始」<<https://www.nna.jp/news/show/2053818>>